

迎摂院の木食観正の石碑

宮川 進

元荒川沿い、宮本町・迎摂院むこうしやうの境内に、不思議な石碑があります。3メートルを超える高さ。上には梵字ぼんじらしい字で「あ、うん」。その下には自己流の漢字か、でも楽しい書体で書かれているのは「南無大師遍照金剛」。書いたのは「木食・観正」もくじき かんしやうです。

木食というのは、米、麦などの五穀を食べず、草や木の葉を食べつつ諸国を修行して回る僧のこと。有名なのは、円空えんくうと同様に木に仏像を刻みながらの旅をした木食行道ぎやうどうと弟子の白道びやくどうですが、ほかにも多くの木食がいて、真言宗、天台宗、浄土宗の系統がありました。

観正は真言宗系。宝暦4年（1754）、淡路島の洲本大工町（洲本市）生まれ。寛政9年（1797）から13年間にわたり全国を回国修行し、文政元年（1818）に小田原に忽然と現われ、同地で火伏、雨乞い、病氣平癒などの加持祈禱を行い、江戸からの参詣者も多く、小田原宿に泊まる宿屋なしという評判になりました。その中で、観正はひたすら、そばと果物だけを食べ、10月までは木綿ひとえの一重もの、11月に入って二重ふたえを用いるという生活をしつつ、民のために祈っていました。江戸に入ると「弘法大師の再来」との名声が拡大、混雑で圧死するひとが出るほどだったとのこと。

観正は文政4年（1821）には、武蔵を訪れ、越谷と蕨に巨大な石碑を残しています。

越谷のこの石碑は、北は水角邑すいかくむら（現・春日部市）、東は松伏邑、南は谷塚邑、西は鈎上邑かぎあげ（現・岩槻区）などの地名を約32も含み、個人名で約270人が刻まれています。広域から多くの参詣者を集めた貴重なモニユメントで、大きさも、観正の石碑として君津市きんづ神野寺、青梅市金剛寺と合わせ三本の指に入るものであると、木食観正を多年にわたり研究されている西海賢二にしがい・東京家政学院大学名誉教授はおっしゃっております。

木食観正・略年譜

- 1754 宝暦4 淡路国洲本大工町（洲本市）にて出生
- 1784 天明4 地藏寺（洲本市）、本実上人のもとで得度
- 1797 寛政9 日本回国修行の旅に出る
- 1810 文化7 日本回国修行を経て、淡路に戻る
- 1818 文政元 相州根府川（小田原市根府川）に忽然と現れる
- 1819 文政2 湯島円満寺にて7日間にわたり加持祈祷
- 〃 〃 小田原安国寺看坊となる
- 1821 文政4 武蔵を訪れる 越谷、蕨にて碑を立てる
- 1822 文政5 本郷村（君津市）の木食観正碑開眼供養
- 〃 〃 小田原安国寺看坊を辞す
- 1829 文政12 江戸にて没する 75歳

参考書

- ・「近世の遊行聖と木食観正」西海賢二著 吉川弘文館刊 2007
- ・「木食僧の系譜——観海・行道・観正——」西海賢二著
 仏教民俗学大系2 聖と民衆 名著出版刊 1986



越谷市迎摂院の木食観正石碑



「我衣」にみる木食観正
 「近世の遊行聖と木食観正」より